

2024年(令和6年)8月5日 月曜日

日

「新しい林業」経営モデル実証事業推進

新サプライチェーンのモデル構築へ

BPTほか

バイオマスパワーテクノロジーズ(BPT、三重県松阪市、北角強社長)は、林野庁が進める「新しい林業」経営モデル実証事業に継続採択されたことを受け、このほど今年度の実証事業を開始した。過去2年間に植栽したセンダン等の生育状況を定期的に計測・比較検証するほか、新しい取り組みとしてドローンによる造林後の生育状況・獣害対策の状況把握や広葉樹のエネルギー用途以外の用材活用の可能性検討などを行う。

実施体制は、BPTとグループ会社の玉木とグループ会社の玉木と三重県内で種苗生産を行う古家園で構成している。また、木質バイオマスのコンサルティングを手掛ける森のエネルギー研究所が調査・報告の支援を行う。

今年度は、奈良県五条市内の山林で、これまでの植栽木の残存・生育状況と獣害対策の現状把握を行い、ドローンを活用することで視認にかかると人的負担や見回りコストの削減について検証する。流通販売については、広葉樹の用途活用の可能性を探るため、樹種別の需要見込みや用途ごとの原木単価、取引状況などの取りまとめを行う。再造林は、これまでに植栽したセンダンやウバメガシ、コナラ、クヌギといった広葉樹苗木の獣害被害や生育状況を定期的に計測し、下草刈りの必要性についても検証する。

一連の結果を踏まえ、経済性評価を行い、主伐から再造林、保育までの林業事業が黒字化するシステムの確立を目指していく方針。

